

学習ガイダンス
大学では何故レポートか？
よりよいレポートを書くために

聖徳大学文学科

村山隆雄

学士力

平成20年中教審答申（学士課程教育の構築に向けて（答申））

①知識、理解

専門分野の基礎知識の体系的理解、多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解

②総合的な学習経験と創造的志向

獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

③汎用的技能

コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力

④態度、志向性

自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力

学士力

学士課程の各専攻分野を通じて培う力。教養を身に付けた市民として行動できる能力
～学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、
自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決
する能力

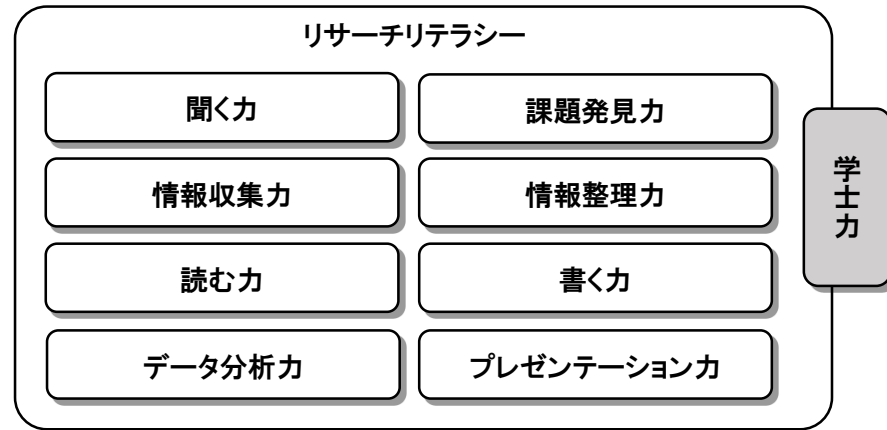
「課題探求能力」

主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探求し、その課題
に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことの
できる力

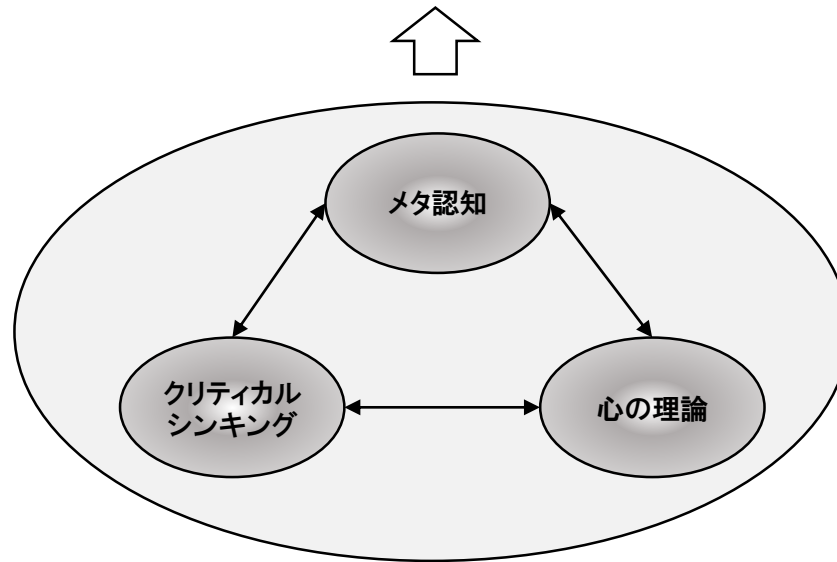
(平成10年大学審議会答申 (21世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学- (答申))

学士力とは？

「レポートを思考の
成果を表現するための
媒体として重視」
(小川仁志『レポート・
論文の教科書』ちくま
プリマー新書,2018)



少し、整理すると



山田剛史, 林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門－研究のための8つの力－』
(ミネルヴァ書房, 2011) p.8より

レポートの種類

- 学習レポート

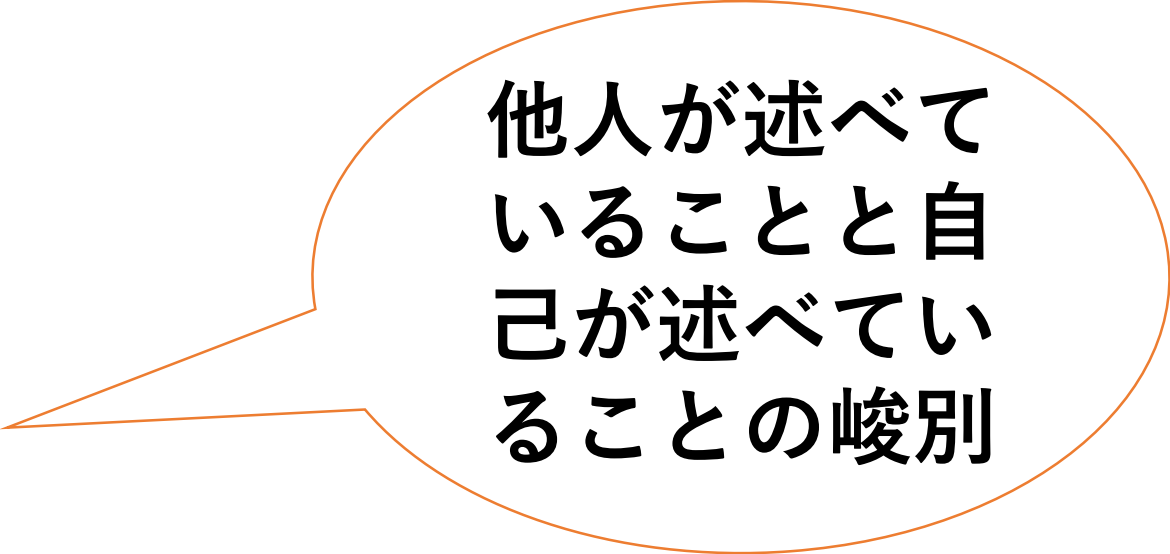
- ① 学習内容のまとめ
- ② 理解度の把握
- ③ 論理的に書く力の修得
- ④ 研究レポートへの準備

- 研究レポート

- ① テーマの選択
- ② 調査・研究方法の習得
- ③ ある研究分野の先行文献の収集・活用
- ④ 根拠に基づく自己の意見

- 卒論

- ① 研究レポートの発展型
- ② 根拠に基づく自己の意見



他人が述べていることと自己が述べていることの峻別

よりよいレポートを書くために

- 出題者の狙いはずさない
 - ① 授業に即した内容
 - ② 課題の的確な把握：何を求めているか。用語の概念と用法
- 論理的な構成
 - ① 根拠に基づくまとめ
 - ② 客観的記述。意見を求められた場合には根拠とセットで
 - ③ 接続詞をうまく使う
- 教科書 + α (関連文献の調査) → 図書館を活用する
 - ① アウトプットのための調査・読書能力の涵養
 - ② 批判的思考の涵養

図書館を活用して調査能力を磨く

- **聖徳大学川並弘明記念図書館**

- ① 図書の宅配貸出制度を活用

- ② 困ったことがあったら相談

- <http://www.seitoku.jp/lib/>

- **国立国会図書館**

- ① 個人の利用登録を活用

- <https://www.ndl.go.jp/jp/registration/index.html>

- ② リサーチナビ：調べ方がわかって便利

- <https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

- ③ 電子化された資料で館外からも利用できるものが増加

- **国立情報学研究所のCiNii**

- <https://ci.nii.ac.jp/>

レポート作成で留意すべきこと

(1) 基本の「き」

- 「形式」を伴わない「内容」はない
- 論文では：序論・本論・結論・謝辞・引用文献と参考文献など
- 学習レポートでは字数などの制約があるが、基本構造の序論・本論・結論は常に意識すること

① テーマ

設問に焦点を合わせる

② 字数

制約下での的確に記述

レポート作成で留意すべきこと

(2) 基本の「き」

・文体

- ① 「である体」で統一
- ② 「である体」と「ですます体」の混在：避ける

・PCを使う場合

- ① 「誤変換」に注意
- ② 字面がきれいな分、「目滑り」の可能性

・辞書や用語辞典使用の習慣を

・読み返す習慣を

- ① 意味・論理の確認
- ② 「記号」として読む：校正する時